

カニの生息環境の変化

■泥地の面積の縮小

蒲生干潟は砂地が広がりコメツキガニが生息している。一部には泥が堆積し、底質の違いによりアシハラガニ (Fig.2), チゴガニ (Fig.3) ヤマトオサガニ (Fig.4) が棲み分けている。

Fig.1は七北田川河口左岸にある泥地で上記の3種のカニが生息している。昨年と比較すると乾燥化が進み (レポートNo.121参照), ヤマトオサガニが生息する柔らかな泥地 (Fig.1の赤線で囲んだ範囲) が減少している。乾燥化の原因は、雨が少ないことや震災で沈降した地盤の隆起 (国土地理院報道発表資料より) などが考えられる。今後の環境の変化と、それに伴う生物の動きに目を向けていきたい。



(Fig.1 七北田川左岸の湿地)



(Fig.2 アシハラガニ)



(Fig.3 チゴガニ)



(Fig.4 ヤマトオサガニ)

■順調な稚魚の成長

Fig.5は今回採集したイシガレイの稚魚で最大の個体である。全長8cmほどで、そろそろ外海へと移動する大きさである。Table.1は今年の2月から7月までの平均全長を示している。4~5月に成長の停滞が見られるが、2011年から実施している調査のデータの範囲内である。今年の稚魚も順調に成長していると考えて良いであろう。



(Fig.5 イシガレイ)

	2月18日	3月27日	4月15日	5月20日	6月17日	7月15日
平均全長 (cm)	2.2	2.6	3.7	3.6	4.5	5.8

(Table.1 2月から5月の平均全長)